

運動させる。(何) 全く知らないと強調する場合  
合は片手の掌で両眼を被う。

知る 「賢い」と同じ手まね。

標しるし 「揭示」と同じ手まね。

白い 人差指で自分の歯を指さす。歯の

「白さ」を示したもの。

城 指頭を上にした人差指をまるめに曲

げて両手を左右に向い合わせる。城の鯨を描  
写したもの。

素人 掌を下に向けた左手を拳にしたその

腕の上に(手首に近いところ)に右手の人差

指を一の字につける。昔の軍隊の袖の一本筋

の新兵から来たもの。

神經(神經質) 指頭を上にした右手の人

差指を右頭のかめかみ辺りに横づけして、そ

の人差指を曲げ伸ばししながら上の方へ通わ

せて行く。神經質な表情にはかめかみ辺りに

青い動脈の筋が走ることから。

診察 脈をとり(自分の左手の脈を右手で

とり)——聴心器を耳につけ、患者の胸にあ

てる身振——小首を傾け考える表情。

新参 「素人」と同じ手まね。

神社 左右両手を家形に合わし、五指を互

の指の間に入れて交叉し、凡ての指先を上

出し、神社の建物の形をつくる。

紳士 高尚——男性。

信じない 指頭を上にした親指と人差指

(人差指以下四指は折り曲げられてある)の

間で顎の下を挟むように支え顎を上へ突き上

げる。「一杯喰う」の手まねでは、顎がはず

れる身振をするのに対して、その逆の意味を

表わすために、顎を上へ突き上げる訳である

信ずる (何) 委かせる——大丈夫(ことが出

来る)——思う (何) その人(男性或は女性)

——云うこと(いろいろ)——嘘——ない——大丈夫

——思う。(何) 信心すること。伝(神)——心

拝む。

親戚（親類）唯に親戚の者を表わすには、肉親一人々（或は単一に男性、女性）

但し、右頬を人差指と中指で、軽くつまんで肉親を表わしてから次の人々（或は単一の男性なり女性）を示すには、頬からかなり長く離してする。即ち、頬と人々を示す位置とは距離を置くこと。

親切 心—やさしい—愛する

心臓 心臓の位置の胸の上に右手をあてがい、心臓の鼓動のリズムに五指で胸を打つ

新聞 掌上向けて拳にした左手を、右腹脇につけ、これも拳にした右手の腕を立ててその肘を左手拳の上に載せると同時に両手の拳をぱつと開く。

心配 「恐れる」「不安」と同じ手まね。

審判 勝負—監督。

進歩 (イ)「上達」と同じ手まね (ロ) 賢い

「知る」の人差指と親指を開くのを徐々にする。少しづつ、知恵が開けて行くこと。

辛抱 「こらえる」と同じ手まね。

新年 「一月一日」で表わす。

ス

水泳 両手で泳ぐ身振り。

水瓜 半弧の水瓜を両手に持って、食べる

身振りそのまま。

水道 水道の蛇口の上の栓をねじる身振り。

水夫（水兵）「海軍」と同じ手まね。

水曜日（水） 掌を上に向け、胸に平行に五指をこまかく波打たせながら、水の流れを表

現する心持で横へ移動させる。

数学 「算術」と同じ手まね。

図画 「絵」と同じ手まね。